



アウグスティヌス著作集20/II

詩編注解(6)

第123—150編

アウグスティヌス❖著 河野一典・松崎一平❖訳



『アウグスティヌス著作集』が遂に完結！

アウグスティヌスの詩編解釈とその講解説教は、文法学者・修辞学者としての彼の個性を色濃く反映しつつ、「旧約聖書のあらゆる記述はキリストの救いの予型(figura)である」とするキリスト教会の聖書解釈の伝統を受け継いでなされた。詩編作者の声に聴きながら、絶えず主イエス・キリストの姿を描く本注解は、教会史上の傑作と呼ばれる。本書には第123—150編が収録されている。

❖訳者紹介 河野一典 1960年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得(哲学・西洋哲学史専攻)。現在、鹿児島純心女子短期大学教授。

著書 『新プラトン主義を学ぶ人のために』(共著、世界思想社、2014年)。

松崎一平 1953年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程学修退学。富山大学教養部講師、助教授、人文学部助教授、教授を経て、2021年に停年退職。現在、富山大学名誉教授。

著書 『アウグスティヌス『告白』——〈わたし〉を語ること……』(岩波書店、2009年)ほか。

A5判・上製・914頁・定価12,100円(本体11,000円+税) ISBN978-4-7642-3034-7 C3316